



# 森と水の源流館 だより

January, 2010 vol.85

電話)52-0888 fax)52-0388(水曜休館)

## 残しておきたい川上村の山言葉 其の一「くすべる」

意味：①焚き火をすること。②休憩すること。

※川上村の方言を調査しています。言葉の意味や使い方などについてのご意見をお待ちしております。

あけまして おめでとうございます。  
本年もどうぞよろしくお祈いします。

旧年中は大変お世話になり、ありがとうございました。  
おかげさまで、森と水の源流館も多くの人たちにご利用をいただき  
昨年一年中忙しくさせていただけたように思います。  
秋には環境大臣表彰もいただき、  
村内のみなさまや、流域のみなさまに支えられた活動に対して  
高い評価をいただくことができました。  
川上村では、現在「環境基本計画」の策定が進められいますが  
森と水の源流館でも、日々の活動をとおして  
この計画の具現化、実践のために、役立つ取り組みを目指して  
参ります。どうぞよろしくお祈いします。

平成22年1月 森と水の源流館 館長 辻谷達雄  
職員 一同



今年も「門スギ」が館前を飾りました。(15日まで設置)

## ▼イベント案内 【吉野川紀の川しらべ隊】 ▼

### ☆「紀の川中流の農業を知る」

水源の村・川上から流れ出た水がどのように流れ、どのような人々のところに届くのか。今回は紀北地域の農家を訪ね、考えてみます。

- 平成22年3月5日(金) 9:00川上村役場発 17:00解散予定
- 内容：紀の川農協等の有機型農業の取組み見学ほか
- 昼食：紀の川市「華岡青洲の里」にて健康バイキング
- 定員：20名
- 参加費：1,000円(バス代・昼食代込)

### ☆「蜻蛉の滝よろず自然観察会～冬越しの虫をさがそう！～」

伊藤ふくおさん(昆虫生態写真家)がやってくる！！  
春間近のムシさんたちはどこに隠れているのでしょうか？  
その他、小さな春をさがす自然観察会です。

- 平成22年3月13日(土) 10:00～15:00
- 講師：伊藤ふくお(昆虫生態写真家)  
朝倉和紀(環境省吉野自然保護官事務所アクティブレンジャー)
- 定員：20名(小学生～※小学生以下は原則として保護者も参加のことにします)
- 参加費：500円(源流人会会員・川上小・中学生は無料)  
※蜻蛉の滝現地集合・解散

いずれも、お申込み・お問い合わせは、森と水の源流館まで

2月9日(火)臨時休館します。10日(水)も休館です。



## 水源地の村の特性を活かし、高校・大学とも連携した環境学習を推進しています



森と水の源流館では、奈良県で推進する森林環境教育を多くの小学校と進めてきました。最近では環境教育のニーズが高まり、小学校だけでなく、高校や大学と連携して進めることも多くなってきています。12月には毎年、川上村をフィールドに選んで下さっている2校の利用がありました。これらの学校担当者のみなさまからは「水源地の村、川上村はフィールドとして素晴らしい」との評価もいただいています。今回は、12月に行われたそれら環境学習の様子を少し紹介します。

### 12/19~20 神戸夙川学院大学

神戸夙川学院大学の講義「自然環境保全論」(河本大地講師)のフィールドワークとして2日間のプログラムを行いました。今年で4年目で年2回開催しています。

当日は、雪が降り、1日目の水源地の森は入口だけ見学。早めに宿に向かい、水源地の森の重要性を水問題と絡めて説明しました。

二日目は柏木集落周辺の名所を巡った後、柏木集落のみなさんの指導で、持続可能な燃料として注目される木質バイオマスについての問題とからめてマキ割りを体験しました。おくどさんを使い、マキで炊いたおかいさんなど山村の生活を学びました。



↑奥には行けませんでした、雪の水源地の森も楽しい体験！



↑マキ割りではネパールからの留学生が大活躍でした

### 12/26-28 松蔭高等学校ブルーアースプロジェクト

このプロジェクトは松蔭高校(神戸市)において進学が決まった3年生のキャリア教育活動のコースの一つです。フィールドワークの始まりの地に川上村を選んでいただいて5年目になりました。最近では教育関係の重要な賞をいくつも取られたり、全国的な報道でも取り上げられているのでご存じの方もいらっしゃると思います。

三日間のプログラムでは人工林、天然林、原生林の伐採跡地など森林の問題を実際に現地を訪れ、体験を通して学んでいきました。また、夜には、各方面の著名人を集め、ワークショップを開催するなど、熱心な取り組みでした。また、源流館の村民ボランティアさんとの交流もあり、帰りには別れを惜しみ涙を浮かべる生徒さんもいました。



↑水源地の森での保水力実験



↑高原出身の民社佳子さんによる間伐のワークショップでは人工林問題がよくわかりました